

会 議 録

会 議 の 名 称	行田市男女共同参画推進審議会（平成 23 年度第 2 回）	
開 催 日 時	平成 23 年 7 月 28 日（木） 開会：午前 10 時 00 分・閉会：午前 12 時 00 分	
開 催 場 所	行田市男女共同参画推進センター 学習室	
出席者（委員） 氏 名	田代美江子、山崎孝子、井上文子、茂木美智代、山岸泰輔、中居 恵子、西山カツ枝、青木敦子、増田豊、松島弘、大野久美子	
欠席者(委員)氏名	松本秀夫、田島和文、	
事 務 局	小林 茂（部長）、浪江美穂（課長）、野中利子（所長）、 石塚聖子（主査）、 県男女共同参画課 田村主幹	
会 議 内 容 （議事）	(1)平成 23 年度男女共同参画関連事業計画について (2)男女共同参画に関する現状について (3)第 3 次ぎょうだ男女共同参画プランについて (4)その他	
会 議 資 料	・ぎょうだ男女共同参画プランダイジェスト版 ・ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況調査結果 ・行田市男女共同参画推進条例 ・行田市男女共同参画推進審議会運営規則 ・平成 23 年度行田市男女共同参画推進センター事業計画 ・行田市男女共同参画フォーラム 2011 ・政策 4 男女が互いに支え合い社会参画できるまちをつくる ・市民意識調査から抜粋 4 男女平等意識について ・第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン第 2 回審議会資料 ・第 3 次ぎょうだ男女共同参画プランの策定に向けた課題の整理 ・男女共同参画 用語解説 ・みんなですすめよう男女共同参画 ・平成 21 年度男女共同参画に関する意識・実態調査報告書	
そ の 他 必 要 事 項		
会議録の 確定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	平成 年 月 日	Ⓔ

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
	2 市長による委嘱状交付
市長	3 市長あいさつ
各委員	4 委員自己紹介
部長	・ 部長あいさつ
司会	・ 事務局職員紹介
	5 会長 副会長の選出について
	・ 審議会運営規則第 2 条により委員の互選による選出を求めたところ、事務局一任の声あり。
	会長に田代委員、副会長に山崎委員の提案し、承認される。
司会	・ この後に議事は審議会運営規則第 3 条第 1 項の規定に基づき会長に議事の進行をお願いする。
議長	・ では、議長を務めさせていただく。まず、運営規則に基づき委員の過半数が出席しているため、この審議会は成立している。本日の審議内容に非公開とする事項はあるか。
事務局	・ なしを報告
議長	・ 議事に入らせていただく。(1)平成 23 年度男女共同参画関連事業計画について、説明をお願いします
事務局	<資料「平成 23 年度行田市男女共同参画推進センター事業計画」に基づき年間スケジュールを説明>
議長	・ この議案は前審議会承認を受けているもので、新委員への報告と確認ということでよろしいか。
事務局	・ はい。
議長	・ では、次に(2)男女共同参画に関する現状についての説明を県男女共同参画課田村主幹に説明をお願いします。
主幹	<資料「みんなですすめよう男女共同参画」「平成 21 年度男女共同参画に関する意識・実態調査報告書」「行田市市民意識調査 4 男女平等意識について」に基づき埼玉県における男女共同参画しくみ、現状と必要性、県民と行田市民の意識の比較、県内部の取り組み等を説明>
議長	大変かみくだいた説明をいただいた。ただ今の説明について何か質問はあるか。
委員	・ 県の DV 実態調査では、身体的暴力、精神的暴力の内容については調査していないということによいか

主幹 委員	・ はい。内容の説明書きを見て回答いただいている。 ・ 説明に、県の職場内での男女共同参画に対する取組みをしていることは分かったが、職員が家庭に戻って家庭内の意識の変化があったかどうかの調査はしているか。
主幹 委員	・ プライベートでの意識が直結しているかは把握していない。 ・ そのあたりを調査するとおもしろいのでは。
主幹	・ 今後男性県職員の意識調査をし、その後県民男性の意識調査を行う予定。その調査をすることにより、意識の推移が分かるかもしれない。ただ、男性職員の育児休業については取りたいという意識は大きくなってはいるが、なかなか取れないという実態があることは分かってきている。
議長 委員	・ 男性の育休取得については全国平均よりは高い。他には。 ・ 県職員が仕事の中でやっていることが、企業にどのように反映されてくのかは考えているか？
主幹	・ そこが難しい問題である。タイムラグはあるが、経済団体等にアプローチをしていくことをやっている最中。また、他の部と協力し、企業を訪問して 短時間勤務制度の重要性をアピールしている。
委員	・ 埼玉県の核家族第2位とあるが、意識調査の内容と関係あるのか。
主幹	・ 強く関係ある内容もあると思っている。
議長	・ 県の意識調査と行田市の比較を考えながら次の議事（3）第3次ぎょうだ男女共同参画プランについての説明をお願いします。
事務局	<資料「参考資料1 第3次ぎょうだ男女共同参画プラン第2回審議会資料」「参考資料2 第3次ぎょうだ男女共同参画プランの策定に向けた課題の整理」を基に第3次プラン策定の目的や作業方法、課題の説明>
議長	・ 今回、上位計画として総合振興計画の資料があるが、課題の整理などは第3次プランの柱となる課題であると理解してよいか。
事務局	・ はい
議長	・ 第3次ぎょうだ男女共同参画プランの策定に向けた課題の整理は第2次プランにおいて何ができて何ができなかったのか、新しい課題は何かを知ることが必要である。第2次プランの説明と主要課題の説明を事務局にお願いしたい。
事務局	<「ぎょうだ男女共同参画プラン ダイジェスト版」を基に、第2次プランの主要課題と重点施策を説明>

議長	・この主要課題や重点施策の位置づけは法令や上位計画とどのような関係にあるのか。それによって議論する内容が違ってくるのではないか。補足説明をお願いします。
事務局	＜参考資料 1 第3次ぎょうだ男女共同参画プランを基に説明＞
議長	・今日は、用意した資料を基に委員のみなさんに共通認識をもていただくということをし、その中で新しい課題や疑問点を出し合いながら議論をしていただきたい。
事務局	・今、教育委員会にお願いして、小学5年生と中学2年生の本人と保護者を対象に男女共同参画についてのアンケートをしている。市民意識調査では回答した年齢に多少ばらつきがあって、3,000人対象の内1,700人から回答をいただいたが、高齢の方の回答率が高い。実際に子育て中の方とは回答結果が違うのではないかと思うので実際に子育てをしながら働いている委員さんにお話を伺いたい。
委員	・年齢層で随分違うと思うが、私の若い頃はバブル期だったので、働くことが楽しかった経験があるので、子育てをひと段落して、またパートで働くようになった。私達の年代は男女の差は感じないで働けるが、今の20代の方々は働いた機会が少なく、お父さんが一生懸命働いてくれて、結婚すれば旦那さんが働いてくれないと困るという感覚があり、年齢によって意識はだいぶ違うと思う。もっと小さい子のお母さんや小学2年生と中学1年生くらいだと顕著に差が出るのではないかと思う。パートの職場でも、私達の年代だと、合わないから次の職場を探そうと考えるが、20代の方は感じ方が違うようだ。
委員	・ワーク・ライフ・バランスの意識調査において言葉を「知らない」というのが6割というのが意外だった。もう少しアピールしていかななくてはいけないと思う。どのようにしていくか検討し、プランの中に入れていったら良いと思う。これは、これから男女共同参画を進めていくに当たって、意識調査の中で本当に浸透させていかないといけない。仕事を分け合って、男女関係なくやろうということが男女共同参画の一番の柱だと思うので、知らない人が6割というのが大変残念な気持ちとする。意識改革ということで取り組んでいきたいと思う。
事務局	・最初に今度のプランを見直すに当たり、事務局としては、ワーク・
事務局	ライフ・バランスの取組み、県からの要請を受けてDV計画を今回のプランの中に取り組むこと。それからVIVAぎょうだをうまく活用して市民の方に使っていただきたい。この3点をプランに盛り込んでい

委員	きたいという考えがある。
事務局	・ワーク・ライフ・バランスという言葉だが、先日 VIVA で開催された講座のアンケートの中にも載っていたが、集計は出ているか？ ・現在集計中である。 ・VIVA ぎょうだの有効活用という説明の中で稼働率を上げるということについて補足したい。男女共同参画に関する、子育て、就業、あるいは DV 等、対象をしぼって市民の方が関わっていけるようにしなければならない。漫然と使用していただきではなく計画的に考えていかなければならない。今回のプラン作成過程で具体的な施策に活かせる大きな原動力になるので考えていただきたい。4 月時点の人口が約 87,000 人、現在 86,000 人を下回り激減している。理由はいろいろあるが、子育て、働きやすさというところを全力で整えていかないと高齢者だけの行田になるのではないかと、この危機感がある。皆様に具体的に話し合っていただけるとありがたい。ぎょうだの男女共同参画プランは、最終的に市長に答申していくわけなので、その中に取り入れていきたい。
委員	・私の地区は以前農村地帯で、今は埋め立てするとすぐ新しい家が建ち、人が住むようになった。そういうことから見ても、住まいを立てると若い人が入って子どもができる、行田全体もそうならなければいい。それにはハローワークとよく連携を取って女性の方の働き口を発信していけばいい。私が学校を回っていつも思っていることは、行田は子育てなどで遅くまで面倒見てくれるところが整っている。資格はないが、私も保育に参加しても良いなんて思っている。保育所も充実して増やして女性が働きやすくする、そんなことを参考にしていきたい。
議長	・具体的な意見で皆もイメージできた。人口の件について統計で徐々に下がっている、年齢別の表もある。国勢調査の結果が出るとさらに分析できるのでは。
委員	・高齢者の方が育児に参加する、イクメンからイクジーへの流れがあるので是非やっていただけると行田が先駆けてできればいいと思う。
委員	・2 年前から審議委員をやっているが、どのように係わるのか模索していた。今日の説明を通して行田を良くしていくために、多くの市民の方が参加してもらうための意見を発言することができる、これからもこのようにしてほしい。
委員	

委員	・ 30 代ですが、妻とは子育てのこと、仕事することを話している。自分の周りにいる同年代の友達、独身の仲間が多い。原因は分からないが、子育てする中で不安を持ち、明るい将来が描けていないのかと勝手に考えている。プランを作るに当たって、10 年という長いスパンのプランであるので、現在の悩みを持っている人の意見やこれからの子育てをしようとしている世代、これから結婚して社会に出ようとしている世代、これから社会に出ようとしている人達の意見も取り入れたほうが良いと思う。フォーラムや講演会をやっている、参加する人はある程度意識が高い人である。啓発活動するに当たっては、本当に声を届けなければいけない人、今働いている人で男女の差別がひどいなあと思っている人や配偶者から暴力を受けている人などに届いているのかというところが確認しづらく把握が難しい。確認するに当たっては、相談する件数が指標の一つだが、図書館と近いこちらで知り合いに会ったらどうしようとか、相談室を使ってほしいがプライバシーは守れるのか、などの心配がある。誰でも気軽にいれる館としての機能とプライバシーを守る相談業務の機能との兼ね合いが「VIVA ぎょうだにあの人が入っていく」というような状況は避けないといけないと思うし、少しずつ解決できればいいのかなと思っている。
委員	・行田の男女共同参画プランが10年前から行っていることが良くわかった。女性の社会進出については、社会的背景があってなかなか難しい面もあると思う。私は小学校に勤めており、学校では男女平等教育を進めている。いろいろな教育が入ってくる中で、家庭の躰の面であるとか、学校で担う面が多くなっており、疑問も感じている。子どもたちに男女は平等で、男女は協力しなければならないと教えているが、教職員の処遇をみると、管理職は9割弱が男性であり、職場での男女共同参画はすぐには実現できないと感じている。先程年齢層によっても考え方が違うという話があったが、私は30数年教師をしているが、保護者を見ても、駆け出しの頃の保護者と10年目20年目の保護者と世代に応じて変わってきている。意識調査は、年齢層の高い方の回答が多いということだが、年齢層に応じた調査をプラン策定の際に検討したらいいと思う。
委員	・年齢によって差が出てくると思う。私の地域でも6割が高齢者である。家の事情で若い人との同居は難しい。昔からの「女はこれをやる、男はこれをやる」という役割を決めてしまっている家庭が多いので身

委員	近なところから変わっていくことが必要であると思う。男女共同参画をしていかななくてはならない。 ・ VIVA ぎょうだについて、先ほどまで学校で行事があり、これから会議で「VIVA ぎょうだ」に行くと話したらほとんどの人が知らなかった。行ってみたいが何をやっているのか、高齢者男性の料理教室をやっている、くらいの知名度しかなかった。「みらい」だったら本の貸し出しに行くとかガールズカウトで使ったりするので、情報を発信して市民に知ってもらうことが必要だと思う。学校でもアピールしていきたい。
委員	・ 第 5 次総合振興計画に男女共同参画事業計画の位置づけがあり、市民意識調査などを盛り込んでプラン策定することは分かった。国や県の計画視点も入れて策定していただきたい。
委員	・ 私の若い頃は男性が働いて景気がよくなっていく時代で、家を 1 軒建て、妻は家にいてという生活が普通であったが、今は小学生が鍵を持っている。母親も働きに出なければならない時代だ。少しでもお手伝いができればいいと思う。行田をよく知らないが、事故や災害もあまりないということで人口が増えていけばいいと思う。
委員	・ 今日はいろいろかがわせていただき、男女共同参画は大変難しいことだと思う。人間の基盤は経済であり、そうでないと家庭は崩れると思う。今は夫婦で働かなくてはならない社会情勢がある。私の息子達や甥達も常に子どもを預けて、奥さんも働いている。若い夫婦がきちんと働ける環境が必要だと思う。離婚が多いということは経済の破綻が多いということもいえるのではないかなと思う。知り合いに 5 人の孫と一緒に住んで、若い夫婦が働くことをサポートしている家庭がある。行田市全体も考えていただきたいと思う。
委員	・ 行田市の子育て支援事業は充実していて、頑張っていると思う。小学生、中学生の子どもたちの成長は、これからの日本の未来を支えていく大事な柱となるので、やはり母親の力だけでなく行政が地域の力を借りて、子育てしやすい環境を整え支援することが、行田市の明るい未来につながると思う。行田に人口が集まってくる住みよい行田を実現することではないか。重点をおいた充実したプランをたてたい。
議長 議長	・ 若い世代が何を望んでいるかを吸い上げることがまず必要だと思うこと。重要なご意見だと思う。人間は自分の生き方を簡単に否定できない。だから自分の生き方がアンケート結果になる。視点を変えて、「若い世代であったら」とか「自分の息子や娘であったらどうなのか」と

